

「日本武道学会柔道専門分科会」「KOBE 自他共栄 CUP 実行委員会」共催シンポジウム

後援：兵庫県教育委員会

テーマ「これからのグローバル社会において中学校・高等学校の柔道教育がもたらすもの」

日時：2016年3月12日（土）13時～15時

場所：灘中・高等学校講堂

総括・菅波盛雄（順天堂大学教授、日本武道学会柔道分科会会長）

司会・進行：山崎俊輔（甲南大学教授）、永木耕介（法政大学教授）

シンポジスト①：曾我部晋哉（甲南大学准教授、全柔連教育普及委員）

フランス・ドイツにおける柔道人口拡大に対する取り組みと両国が抱える問題点（20分）

シンポジスト②：和田孫博（灘中・高等学校校長）

嘉納治五郎と灘中・高等学校（仮題、20分）

シンポジスト③：鴨野博道（灘中・高等学校教諭）

イギリスのパブリックスクールにおける柔道教育（仮題、20分）

シンポジスト④：片山理絵、カルマ L・ドルジ（ブータン柔道協会会長、ペルキル小・中・高等学校理事長）

堀内芳洋（ブータン海外協力隊員）

ブータンの柔道事情と柔道教育に期待するもの（仮題、20分）

（開催趣旨）

平成20年改訂の中学校学習指導要領（保健体育）により第1学年・第2学年における「F. 武道」領域が必修となった。最近の全国的調査では、「武道」の中で「柔道」を実施している中学校は全体の約65%とされている。「武道」という概念自体は近代以降に形成された比較的新しいものであるが、前近代の武術を教育的に再創造した先駆は、講道館柔道の創始者・嘉納治五郎師範であった（以下、嘉納と略す）。

一方、嘉納は柔道の創始者というだけでなく、アジア初の国際オリンピック委員を務めたグローバルな「スポーツ教育者」であった。彼の世界行脚による功績がその後、日本にオリンピック開催をもたらして行った。

さて、今回われわれは、「これからのグローバル社会において中学校・高等学校の柔道教育がもたらすもの」と題するシンポジウムを開催する。

まず、全柔連教育普及委員である曾我部晋哉先生に、戦後、柔道愛好者が飛躍的に増加したフランスおよびドイツの今日の実態と課題についてお話いただく。

次に、嘉納が創設に関わった灘中・高等学校の現在の学校長である和田孫博先生にご登壇願う。当校では創設以来、体育授業における柔道が必修とされていること、そして、柔道の授業を受けた生徒や課外活動としての柔道部員から、数多くの優秀な人材が世に送り出されてきた。「真のグローバル人材のロールモデル」としての嘉納治五郎についてお話いただく。

次いで、灘中・高等学校が定期交流しているイギリスのパブリックスクールの柔道教育に対する思いについて、当校教諭の鴨野博道先生にお話いただく。

また今回、数年前まで柔道人口がゼロであったブータンが選手を連れて「KOBE 自他共栄 CUP」に初参加している「日・ブータン外交関係樹立 30 周年（2016）記念認定事業—外務省—」。そのようなブータンが柔道教育に何を求め、期待しているのか、ブータン柔道の普及、発展の第一人者である片山理恵、カルマ L・ドルジ両先生（夫妻）と2014年よりブータンの現地で指導されている堀内芳洋先生にお話いただく。

以上により、柔道の普及と今日あるいは未来の青少年に対する柔道教育の可能性について、グローバルな視点から探ることとしたい。